

## 4 . 学校教育相談がなすべきこと

ここでの「学校教育相談」とは、「教師」が「学校」でする「教育相談」という意味に定義する。学校教育において学校教育相談がなすべきことは何か。次頁の「学校教育相談map」を参照しながら説明する。

学校教育相談の内容を大きく3つに分けると、開発的サービス 予防的サービス 援助サービスがある。

従来、学校教育相談というと「援助的なサービス」の部分が重視されていた。不登校問題は学校教育相談の主たる仕事と考えられてきた。いじめの解決も大きな課題である。非行の指導についても様々なアプローチの1つとして役立つ。最近では、LDやADHDやASなども注目されている。これらも大きな柱の1つである。多くの優れた実践も報告されている。しかし、これらの問題はどんどん複雑化し、教師の手に負えなくなっている。また、教師の仕事が多忙化しじっくり時間をかける余裕もなくなっている。さらに、学校教育相談イコール生徒への援助サービスとすると、そうした問題を持つ生徒がいなければ、多くの教師にとって学校教育相談は無縁な存在になる。

一般の教師が学校で対象にしなければならないのは、少数の問題が顕在化し深刻化している生徒よりも、学校に登校している大多数の生徒である。彼らも心身とも全く健康な状態ではなく、どこかに何らかの問題を抱えながらの登校している。学校教育相談の主たる仕事は、彼らの問題が深刻化しないようにする予防的サービスや、自分で問題に気づき自分で解決する力を育成する開発的サービスである。

予防的サービスは、面談などの相談活動である。担任が呼び出してする定期面談や生徒の自主来談による悩み相談では、カウンセリングの知識や技法全般を知っていると上手く話を聴くことができる。進路相談ではキャリアカウンセリングが役立つ。教科担当の学習相談でも、認知心理学や認知カウンセリングを知っていると問題が明確に見え、行動療法の知識があると多くのヒントが得られる。人間関係に問題のある生徒の指導にはソーシャルスキルトレーニングが役立つし、ストレスの高い生徒の指導にはリラクゼーションなどのストレスマネジメント教育が役立つ。

開発的サービスは、構成的グループエンカウンターが最近急速に広まり、学級の間関係育成するのに多くのプログラムを用意されている。グルーptrainingや学校グループワークからも多く学ぶところがある。委員会活動の一環として生徒同士の援助関係を作るためにピアサポートが注目されている。これらの活動は、最近多くの実践がなされているが、心を扱う問題だけに、ある程度の力量と経験が必要であり、できれば事前に自分で経験しておく必要がある。思いつきや勢いだけで実施すると、思わぬ大きな問題が生じることがある。また、最近進路指導に教育相談的な手法を取り入れることが多くなった。今後もこの分野では大いに貢献できるであろう。総合的な学習にも心理教育が大いに役立つはずである。さらに、教師の本業である授業にも、教育工学や認知心理学や学習心理学や教育心理学の知見が多くの示唆を与えてくれるだろう。

また、学校教育相談をある程度学んだ教師は、問題が深刻化した生徒の援助サービスや、教師や保護者との相談や情報提供、外部機関との連携などが活動内容になるだろう。さらに、スクールカウンセラーを十分に機能させるために、一般教師との橋渡しのコーディネーターが大きな役割になってくる。

ゆとり教育から学力重視の方向へ大きく変化しようとしている現在の学校教育において、生じてくるであろう歪みを正し、知情意揃った生徒を育成するために、学校教育相談はますます重要になってくる。